

# そらこめ通信

No.82 2017年5月号

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

4月14日午後から始まった種まきは23日に無事終わりました。費やした日数は10日間。JA北いぶきさんから購入した種もみを、4月3日から10日ほど浸種(水温12度の水に一定期間浸けること)しつつ発芽を促し(催芽といいます)、その後、芽きり(冷水中に浸けるなどして、催芽した種もみの生育を一旦止めること)したうえで、品種ごとに種まきを進めました。田植えの開始は最初の種まきから35日後の5月19日を予定しています。種まきから35日後といっても、全ての種まきが終わった時点で田植えまで残り25日あまり。この後の田起こしや代かきなどの日数を考えれば時間的な余裕はありません。2台のトラクターを駆使しながらなんとか作業を進める毎日。せっかくのゴールデンウィークもなかなか休みを取るのが厳しいというのが現実です。圃場の乾燥を待って4月27日に田起こしが始まりしました。田起こしが終わると順次圃場に水が入り、代掻きが始まります。今は、田起こし作業の傍ら育苗ハウスの温度管理に気を遣う毎日です。

先に書きましたが、弊社では田植えの開始日を毎年播種後35日、且つ5月19日前後と決めております。理由は苗の生育進度(4葉まで)と、あえて言えば外気温でしょうか。自然相手の商売ゆえ思った通りにならないことも多いのですが、長年の経験からこの日以降であれば気温が安定するのでは…という判断をしています。苗の根の活着促進やその後の生育には安定した気温が欠かせません。一旦圃場に移植してしまえばあとはお天道さま次第。勿論、気温が低い日などは深水管理など精一杯手を尽くしますが、人のやれることには限りがあります。今年もお天道さまの力を借りながら、良い出来秋が迎えられるよう願ってやみません。



育苗ポットに破損がないか確認(3月28日)



苗床に肥料を散布(3月28日)



苗床の耕起作業(3月29日)



種もみの計量、小分け作業(3月30日)



ダリアのハウスの床均し(4月3日)



苗床の砕土攪拌(4月3日)



ロータリーの歯の取り換え作業(左)と歯の摩耗状態の新旧比較(4月7日)



催芽機による浸種作業(4月9日)



種まき開始の朝、思わぬ降雪になりました(4月14日)



ダリアの苗の移植作業(4月14日)



育苗ポットへの播種作業(4月14日)



播種機の調整をする拓哉さん(4月14日)



播種したポットの保温作業(4月14日)



ハウスに並べたポットを圧着(4月22日)



育苗ハウス内に作られた2重の温室(中)と「ななつぼし」の発芽状況(右)(4月22日)



育苗ハウスの中に2重の温室。これには苗の保温のほかにもうひとつ理由があります。外側のビニールテントは外気と直に接するため内側に水滴が付きやすい構造になっています。したがって常時テントから水滴が落ちてくるのですが、決まって同じ場所に落ちる傾向があるのだとか。中の温室が無いと、水滴が直接ポットに落ち、多くの箇所が苗がダメになってしまうのです。2重の温室には、苗が一定の大きさに成長するまで水滴から苗を守るという意味もあります。

インターネットで美味しいお米♪

(株)空知こめ工房 ホームページ  
<http://www.sorachi-kome.jp/>  
 ブログ「生産日誌」更新中です